

暁木会会員 各位

令和 2 年 12 月吉日
 暁 木 会
<http://www.gyoubokukai.jp/>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

今回の暁木会ニュース第 43 号では加藤先生の研究報告に加え、現役最前線、新技術について、大学との意見交換会、就職関連ウェブ会議など幅広く会員様から寄稿して頂いております。ぜひご通読頂けますようお願いいたします。

今後とも大学、学生、会員等の皆様に幅広くニュースをご通読して頂けますよう広報 G も頑張っ参りたいと考えております。皆様にもご協力の程よろしくお願いいたします。

研究報告（疎水性地盤材料の遮水効果の実証試験）

環境共生工学講座 地圏環境工学 加藤 正司

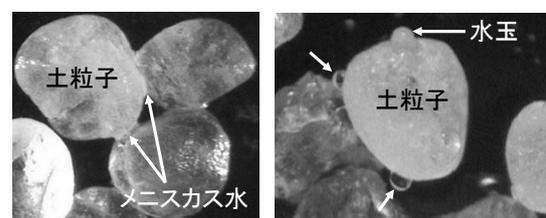
<はじめに>

集中豪雨による斜面崩壊は毎年、人命や財産の被害を生じ、近年のゲリラ豪雨などの異常気象と相まって社会的な危機感が高まっている。本研究では、疎水性をもつ土（以下、『疎水材』と呼ぶ）を用いて、不飽和状態の自然斜面への雨水の浸透に対して、長期的に高度な遮断機能と排水機能を持つ遮水性地盤材料としての可能性を検証する。自然斜面の安全を守るために、新たな地盤材料である疎水材を用いて効率的かつ自然に優しい遮水性層の構築を提案する。研究内容は、疎水材の力学および水理学的特性の把握のために不飽和土一面せん断試験、保水性試験、接触角測定試験および水侵入時間試験を実施、また、実物大模型斜面を野外に作製して遮水特性の長期安定の確認、および遮水性地盤材料の実用化の可能性を明らかにするというものである。本報告では、現在進行中の研究の一部を紹介する。

<疎水性地盤材料について>

自然状態の土は、一般的に親水性材料であるが、オイル流出などの有機汚染や環境汚染、また山火事などの自然災害により疎水性の土へと変化する場合がある。土の疎水性は土中水の接触角やその分布に影響を及ぼすため、力学特性が変化する可能性が考えられる。自然状態の土である親水性砂の場合、メニスカス水が存在するが、疎水性砂の場合は土粒子

表面に水玉として存在し、表面水の様子は明らかに異なる（図 1）。例えば疎水性をもつ豊



(a) 親水性砂 (b) 疎水性砂

図 1 親水性砂と疎水性砂の表面水の様子

：疎水性をもつ土粒子の表面は、水に対して拡散障壁として作用。

浦砂は、落下させた水が浸透しにくい地盤材料になる(図2)。このように疎水性地盤材料は親水性地盤材料と異なる特性を持つので、農学分野においては豪雨時の氾濫の誘因として、また、その遮水性を利用した塩害軽減のための利用を目指して研究がなされてきたが、地盤工学的な研究はほとんどなされていなかった。そこで、不飽和土を対象とした地盤工学および土質力学の理論枠組みをベースにしながら、シラン処理により人工的に作製した疎水材の特性の活かした遮水層の開発を展開することが、本研究の目的である。



図2 疎水性をもつ豊浦砂上の水滴の様子
：疎水材になった豊浦砂は、落下した水を浸透させない。

< 試験に用いた試料とシラン処理方法 >

試験には豊浦砂、DLクレーおよびまさ土(2mmふるい通過分)を用いた。試薬(オクチルトリエトキシシラン)を用いた次のような2種類の手順で試料のシラン処理を行った。1つは、試薬を水で希釈しない方法で、イソプロピルアルコール50mlに対して定量の試薬の量を変えて加えた溶液に土試料を投入して3分間攪拌し、3日間放置後、残った溶液を流して、1日炉乾燥する(「希釈なし」と呼ぶ)。別の方法として、イソプロピルアルコールと試薬を10:1の割合で混ぜた溶液に水を加えてものに、土試料を投入して、同様に攪拌・放置・炉乾燥する方法である(「希釈あり」と呼ぶ)。これは、少量の試薬によりシラン処理の効果が得られるかどうかを確認するものである。さらに、今回は市販のコンクリート用シラン・シロキサン系浸透性吸水防止材を用いて、同様な処理を行った。この場合、水50mlに対して含浸材を1g程度の割合で加えて溶液を作製し、土試料を入れて攪拌後1日間放置し、残った溶液を流して1日自然乾燥した(「浸透性吸水防止材」と呼ぶ)。

< 簡易な模型土槽による遮水効果の実証試験 >

疎水性材料の浸透防止特性を調べるために、図3のような簡易な土槽を用いて、長期の透水性を調べるために、以下のような手順で試験を実施した。内径6.9cmの円筒に、インクで着色した、乾燥した豊浦砂(乾燥密度 1.5g/cm^3)で高さ3cmのフィルタ層を締固めて作製する。その上に、疎水性材料で高さ5cmの層(乾燥密度 1.5g/cm^3)を締固めて作製する。内径

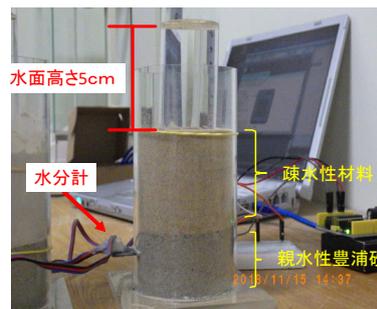


図3 長期透水試験の状況

3.7cmのパイプを土槽に刺し、水を土表面から高さ5cmまで注ぐ(降雨強度 50mm/h で1時間降った場合を想定)。フィルタ層の土槽壁面にあるスリットに水分計を差し込み、水が浸

表1 長期透水試験結果(測定期間約3.5ヵ月)

	混合率(g/kg)	長期不透水	備考
豊浦砂(希釈なし)	17.6	○	およそ3ヵ月経過
DLクレー(希釈なし)	17.6	○	およそ3ヵ月経過
まさ土(希釈なし)	17.6	×	乾燥密度 $1.5 \cdot 1.65 \cdot 1.74\text{g/cm}^3$ で実験 2、0.85、0.425、0.25mmでふるって実験
豊浦砂(浸透性吸水防止材)	100.0	○	水面1cmでおよそ2ヵ月経過

透した場合にその時刻を計測する、というものである。なお、スリット部分は幅 3 cm，高さ 2 mm であり，水分

表 2 ふるったまさ土の長期透水試験結果(測定期間約 2 週間)

疎水性材料	ふるいの目の開き (mm)	混合率 (g/kg)	長期不透水性	備考
まさ土 (希釈なし)	2	176		水面高さ 5cm で 2 週間経過
まさ土 (希釈なし)	0.25	176		水面高さ 5cm で 2 週間経過
まさ土 (浸透性吸水防止材)	0.25	100		水面高さ 1cm で 2 週間経過

計を設置しても通気可能な状態となっている。表 1 は，測定期間約 3.5 か月間の試験結果を示している。希釈なしの豊浦砂，DL クレーについては浸透が生じていないが，まさ土については，設置後数時間で浸透を生じた。希釈なしのまさ土の接触角は，豊浦砂とほぼ同じ程度であることが確認されている。よって，このような透水性の違いは試料の粒径が影響しているものと考え，0.25，2mm ふるいを用いて，粗い粒径をカットしたまさ土試料を用いて，同様な試験を行った。表 2 はその結果を示したものである。この試料では，試薬の濃度を約 10 倍にしてシラン処理を行っている。この場合には，まさ土でも不透水性を維持していることが分かる。よって，まさ土のような粗い粒径を含んだ試料でも粒度調整して高い濃度の試薬を用いれば，遮水性が得られるものと考えられる。浸透性吸水防止材については，1cm の水面高さであれば，不透水性を維持していることが分かる。本研究では令和 2 年度以降，大型模型土槽を用いた遮水層の長期自然暴露試験を行い，遮水特性が維持されることを確認する予定である。

現役最前線

株式会社竹中土木 技術・生産本部 技術開発部
佐藤 俊 14C

1. はじめに

私は、2014 年に大学卒業後、株式会社竹中土木に入社しました。入社してからの 6 年間は土木現場での施工管理に携わり、今年の春より技術開発部への配属となりました。現在は竹中技術研究所にて技術開発に携わっています。これらの業務経験の中から、直近の現場業務と現在の技術開発業務についてご紹介いたします。

2. 北陸新幹線敦賀駅高架橋他工事

当工事は、北陸新幹線金沢～敦賀間延伸区間約 125 km の内、終点部分の敦賀駅にて高架橋を建設する工事です。工事区間は約 1 km で駅舎部は 7 階建てビルに相当する高さで、非常に大規模な構造物であるとともに、周辺の付帯設備や仮設工事も多く、業線近接工事、迫りくる工期と非常に厳しい条件の中、開業に向け工事を進めております。



【現場上空写真】

その中で私は構造物構築の施工管理全般を行っていました。常時 100～200 人の作業員が従事しており、毎月数千 m³ ものコンクリート打設が行われる中での安全・品質管理はとても大変でしたが、当現場での経験は貴重であり、非常に学びの大きいものでした。

3．竹中技術研究所

技術研究所には、地盤部門、コンクリート部門、ロボット部門、環境部門と様々な部門があります。私はコンクリート工事の経験が多いこともあり、コンクリート部門に属しております。その中で昨今の建設業界の大きな課題である老朽化するインフラ施設や建設労働人口減少に対応すべく、補強技術や省力化技術の開発を行っております。



【補強工法の性能確認試験】

現場業務では、学びきれなかった専門的な知識の習得や他部門の最先端技術を身近に感じることができ、刺激的な日々を送っております。

3．テレワークについて

コロナ渦の現在、当社においてもテレワークが導入されています。現場等の外勤部門はなかなか難しいですが、内勤部門は出勤率 50%を目指して取り組んでおります。

私自身、異動後すぐにこのような状況になり戸惑う部分もありましたが、実験などの業務がないときはテレワークにて業務を行っております。多少不便なこともありますが、オンライン会議機能も充実しており、環境に合わせて仕事内容を調整するなど工夫をして、業務に取り組んでおります。今後さらにテレワークが浸透していき、家庭や育児、介護などとバランスの取れた多様な働き方が出来るのではないかと感じております。

4．おわりに

業務を進める中で関係者とのコミュニケーションの重要性を日々感じています。発注者や協力会社はもちろんのこと、隣接工事や建築・設備工事関係者など非常に多くの方々と仕事を進めていかなければなりません。現場では特に思い違いやコミュニケーション不足によって、大きな損失や事故につながりかねません。まだまだ土木技術者としての未熟さを痛感する毎日ですが、日々精進してまいります。

最後になりましたが、暁木会並びに市民工学科の皆様の益々のご発展を祈念しております。

現役最前線

兵庫県における農業用ダムの洪水調節機能強化について

兵庫県農政環境部農村環境室 井上直樹（43C）



1 はじめに

兵庫県において取り組んで参りました「農業用ダム」の洪水調節機能強化についてご紹介します。

2 既存ダムの洪水調節機能強化の背景

近年、日本各地で異常気象に伴う大規模な自然災害が頻発し、特に平成30年7月豪雨等、全国的に豪雨による甚大な被害が生じています。一方で、ダムによる洪水調節は有効な治水対策であるものの、発電、上水道、工業用水、農業用ダム等の利水ダムは洪水調節（治水）に活用されていないものが多く、全国の全てのダムの有効貯水量のうち洪水調節のために利用される貯水容量は全体のわずかに約3割にとどまっていた。このようななか、緊急時に既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用できるよう、令和元年12月、国の関係省庁出席の会議において「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針」が策定され、一級河川内の既存ダムについては令和2年の出水期から、二級河川内の既存ダムについても順次、河川管理者・ダム管理者・関係利水者の協力・連携により洪水調節機能の強化に取り組むこととされたところです。

これまでも兵庫県では先進的に既存ダムの有効活用に取り組んできましたが、この基本方針に基づいて既存ダムのさらなる洪水調節機能の強化に取り組むこととし、今年の6月からは一級・二級河川内の24基の既存ダムにおいて4,615万t、9月からは二級河川内の18基の既存ダムで1,426万tの新たな洪水調節容量を確保しました（合計6,041万t、平均的な県内の治水ダムの約28基分に相当）。

3 兵庫県の農業用ダムにおける洪水調節機能強化

兵庫県管理の農業用ダムは一級河川（加古川水系、円山川水系）内に4基、二級河川（洲本川水系、三原川水系、本庄川水系）内に3基ありますが、同基本方針に基づき全ての農業用ダムを対象に利水容量の一部を治水容量として活用する検討に着手しました。

洪水の発生前にダムの水位を低下させ、利水容量を活用した空き容量（治水活用容量）を確保する方法としては、下流の河川に被害が生じるおそれのある豪雨が予測されると貯水位を低下させる「事前放流」、農業用水の利用に余裕がある時期にダムの水位を低水位で管理する「時期ごとの貯水位運用（期間放流）」があります。農業用ダムは農業用水を貯水するダムであり、作物の生育のために必要な用水量が時期（旬）ごとに変化するという特性を有していること、そもそも放流設備等のダムの構造や管理体制が洪水調節を目的として整備されていないことをふまえ、農業用ダムにおいては「時期ごとの貯水位運用（期間放流）」によるダムの空き容量の確保を第一優先とし、近年の再渇水年（平成6年）における降水量でも水収支計算上、当該時期以降の農業用水が不足しない貯水位（貯水量）、かつ、次の年の灌漑期首（次年の5月頃）には満水に回復できる貯水位（貯水量）

を治水に活用できる最大量として算出しました。

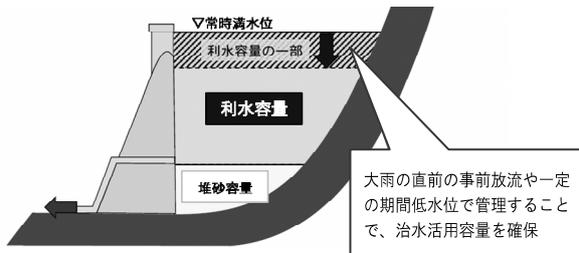
農業用ダムの利水容量を治水容量として活用するには関係利水者（農業者）との合意形成が必要不可欠です。最大可能治水活用容量は計算では条件を満たすものの、万が一水位が回復しない場合の保証（金銭補償ではなく代替水源）がないことが合意形成のネックとなり、今年度は取り組みの初年度であることを踏まえ、まずは関係利水者の同意が得られた期間・水位での低水管理や、特定の期間での低水管理は行わずに豪雨が予測された際の事前放流によりダムの空き容量の確保を行うこととなりました。

今後、今年度の取り組み結果を評価・分析したうえで、さらなる洪水調節機能の強化について引き続き検討を進めていくこととしています。

【県管理農業用ダムの治水活用容量】

水系	ダム名	所在地	堤高	総貯水量	治水活用	治水活用容量の確保方法	
					容量		
一級水系	加古川	つばいち 鏢市ダム	丹波篠山市	34.5m	107 万 m ³	23 万 m ³	時期ごとの貯水位運用(期間放流):8~10月
		はちまんだに 八幡谷ダム	丹波篠山市	27.5m	74 万 m ³	19 万 m ³	時期ごとの貯水位運用(期間放流):8~10月
		さなか 佐仲ダム	丹波篠山市	38.9m	50 万 m ³	14 万 m ³	時期ごとの貯水位運用(期間放流):8~10月
		ふじおか 藤岡ダム	丹波篠山市	43.4m	87 万 m ³	18 万 m ³	時期ごとの貯水位運用(期間放流):8~10月
二級水系	洲本川	あいやがわ 鮎屋川ダム	洲本市	46.2m	180 万 m ³	10 万 m ³	事前放流:6~10月
		だいにちがわ 大日川ダム	南あわじ市	42.8m	209 万 m ³	4 万 m ³	事前放流:6~10月
		ほんじょうがわ 本庄川ダム	南あわじ市	47.7m	172 万 m ³	2 万 m ³	時期ごとの貯水位運用(期間放流):10月

治水活用容量:利水容量の一部を時期ごとの貯水位運用や事前放流により治水活用する容量



鮎屋川ダム（洲本市）

利水ダムにおける治水活用容量確保のイメージ

4 おわりに

昨年の暮れに急遽、基本方針が示され、今年の出水期（6月）から一級河川内の既存ダムについて洪水調節機能強化を図ることが至上命題となりました。非常にタイトなスケジュールの中、各ダムの治水活用が可能な容量をほぼ直営作業で算出し、令和2年6月から新しいダムの運用が始められるよう関係者と調整を進めようとした矢先、本県でもコロナウイルスの蔓延に伴って原則在宅勤務となり、狭い我が家での業務が始まりました。そのような慣れない職場環境のなかでも家族の最大限の協力のおかげで、なんとか5月末に関係者間の治水協定締結、6月からの農業用ダムの新運用にこぎつけることができました。皆様におかれましては、常日頃から家庭における危機管理にも最大限の気配り・心配りをされることをお勧めいたします。

新技術（プリントロックワイヤーロープ）

八興産業(株) 井上昌三 C7

このたび弊社は新商品「プリントロックワイヤーロープ(PLWR)」を開発し、平成 31 年 3 月 8 日、日本国特許(第 6489550)を取得致しました。又商標登録 PLWR(令和 2 年 4 月 22 日)第 6247567 号、商標登録プリントロックワイヤーロープ(令和 2 年 6 月 26 日)第 6263767 号で登録済みの件、ご報告申し上げます。

本発明は玉掛けワイヤーロープ、クレーンワイヤーロープ、エレベーターワイヤーロープ、ペンダントワイヤーロープ等、各種ワイヤーロープ商品の製作時に、プレス加工にて成型される円筒型加締め環表面を利用し、アルミ合金環はもとより、スチール環、真鍮環、その他金属環の表面に、その製品の各種情報を、水性インキを使用し印刷する方法です。

例えば玉掛け商品の場合、ロープ構造、ロープ径、製品長さ、基本使用安全荷重 60°, 使用開始年月、使用ロープメーカー名等の各種必要情報を赤色、黄色、緑色、青色、黒色等の水性インキにて印刷表示する事に成功した商品です。又ご使用中の製品の安全点検時には、印字インキの風化(劣化)状況と製品の外傷状況を勘案し、製品使用期間延長判定の参考にも応用が可能と思われれます。



「安全は全てに優先する」を肝に銘じ、ワイヤーロープ製品を製作、販売する企業の責任者として、永年にわたり、その責任を痛感し、40年に亘り色々研究を重ねて参りました。本商品が企業の皆様方の更なる安全作業推進と安全管理の一助となれば幸いに存じます。

以上取り急ぎ御報告申し上げます。

本商品の発売開始は令和 3 年 4 月 1 日を予定致しております。各企業の皆様方のご利用を切にお願い申し上げます。

皆様からも新技術・新工法の記事をお待ちしています。

連絡先：常任幹事 広報 G 能沢 昌和 ㊦

株式会社 熊谷組

TEL：06-6225-2123 FAX：06-6225-2199

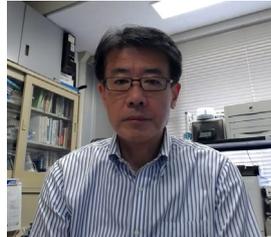
E-mail：mnozawa@ku.kumagaigumi.co.jp

大学との意見交換会

- 1 開催日(ウェブ開催)：2020年9月10日(木) 18時～19時30分
- 2 参加者：森川先生、織田澤先生、伊藤会長、山下広報幹事、能沢(記録)

伊藤：現在の大学の状況を教えてください。

森川先生



伊藤会長



森川：現状で、新型コロナに対して本学活動制限指針のレベル2(4、5月はレベル4、6月はレベル3、7月からレベル2)で対応している。工学研究科では8月に入って複数名の感染者が出た。大学院入試が控えていたためクラスター発生防止

対策を講じることとなり、人数に限らず食事会・飲み会は自粛要請された。

感染症専門家の意見を監督要領に盛り込んで試験対応し、院試は無事に対面式で実施できた。本年度後半の入試にも繋がる試験対応ができたと考えている。

森川：一昨日、大学本部から、10月1日よりレベル2からレベル1に緩和されることが発表された。通常の講義が、教室定員の50%以下の制限付きで認められることとなる。今のところ、創造思考ゼミナール、や土木CAD製図、数値計算実習、大学院講義の一部が対面授業で実施予定であり、その他、いくつかの講義科目についても現在、対面授業化の検討を進めている。学生実験など一部の科目では録画映像による授業も実施している。オンラインによる実験授業はリアリティが不足しているため、希望者には、実験見学会を開催予定である。

森川：レベル2の7月において、1年生は少人数で班分けしてできる創造思考ゼミナールを対面式で実施し、大学に来る機会をつくった。大学の食堂に感激する初々しい姿がみられた。2、3年生については前期は全てweb授業で講義した。

伊藤：学生は、現在のオンラインの講義をどう思っていますか？

森川：1年生の7割が対面講義を希望しているが、2年生以上は3割程度に止まっている。1年生は、大学に行って早く同級生とのコミュニケーションをとりたいという思いがあるが、2年生以上はwebの方が単位を取りやすいと思っているからかもしれない(笑)。一方で、実験・実習の授業はwebでは分かりづらいとの意見も出ている。

森川：今後も対面式を増やしていきたいが、大学としてはクラスター発生を一番恐れている。そのため、神戸大学保健管理センターの指導に基づき、クラスター発生防止対策をとっている。

伊藤：大学の対応の厳しさに驚きます。兵庫県の小中学校では感染者が出たら2日間休校、高校では濃厚接触者のみ休みとしているのが一般的。

森川：大学は小中高と異なり、科目ごとに教室を移動しながら授業を受けるため、接触者が広範囲となり、厳しい対応をとらざるを得ない。今後は、対面式とwebを使いわけながら講義していくが、オンライン授業におけるアクセスポイント(教室)の不足や食堂の定員不足も課題である。

森川：レベル2であれば、4年生や院生の研究は8名/100m²以下であれば許可されている。森川研究室では、学生部屋に全員集まることができず、ネット上でスケジュール表を管理

し、研究室への入室者を調整している。実験は、感染予防対策を講じながら、ほぼ計画通りに実施できている。

伊藤：学生の生活はどうか？

森川：実家に帰省したり、アルバイトも出来始めているので、なんとかやりくりしている。

伊藤：退学者は出ていませんか？

森川：退学の前段階として休学届が出るものと考えているが、例年と比較して増えている状況ではない。退学者は今のところ出ていない。

織田澤：よい事例としては、学生結婚・出産して休学中の学生が、オンライン授業であれば出席できるので、復学したことがあった。

伊藤：全国的に退学予備軍が3割程度いるといわれています。学生目線が必要ですね。

伊藤：コロナで逆に良いことはなかったですか？例えば、国内外で普段会えない方の講義を聴講できたり、他大学との交流などはありませんか？

織田澤：MaaSの著名人にオンライン講義を依頼している例はある。

織田澤先生

森川：大多数の教員はオンライン講義はやりたくないのが本音。通信容量の関係で受講生が多数の授業では学生はカメラ off にする必要もあり、パソコン画面に向かって講義することに虚しさを感じ、教育効果も十分ではない。

伊藤：指定感染症として「2類相当」から「5類」への見直しがないと、抜本的な解決にはならないのかもしれないね。



伊藤：暁木会からの支援は充分ですか？

織田澤：支援金でスペックの古いパソコン4台を買い替えた。

伊藤：暁木会の会員も増えているので、遠慮なく学生のために使ってほしい。

織田澤：携帯会社が通信制限を無くすサービスを終了すると、WiFiのルーター貸出の需要が増える可能性がある。今後も学生ニーズを聞きながら対応していく。

伊藤：就職については問題ないですか？

森川：新型コロナウイルスによる土木業界への影響があまりなく、今年度の就職に大きな影響はない。大方の学生は民間企業の内定を取ったり、公務員試験に合格している。国交省の総合職にも合格者が出た。土木の就職状況はよいが、他学科では院試の受験者数が大幅に増加したようである。業界の差も大きいと思われる。

来年度以降については、企業説明会、現場見学会等への影響もあり、学生への情報不足が懸念されるが、人数を絞りながら現場見学会を開催する大手ゼネコンも出始めている。就職面でも暁木会の支援をお願いする。

伊藤：承知しました。今後も卒業生が一丸となって大学を支援していきます。引き続き何でもおっしゃって下さい。厳しい状況が続きますが頑張ってください。

山下広報幹事



能沢広報幹事



就職関連ウェブ会議

1. 開催日(ウェブ開催)：2020年10月5日(月) 18時～19時30分
2. 参加者：澁谷先生、中山先生、楯田先生、伊藤会長、山下副会長、竹本幹事、能沢(記録)

澁谷：今年度の就職に関する状況を報告する。4年生、院2年生の内定先を調査中ではあるが学生からの内々定取消や就職先の紹介依頼がないことから問題はないと考えている。調査結果は、11月の教室会議で報告予定である。調査結果は、暁木会とも共有する。

澁谷：今年度の就職活動の解禁は、例年通り4月からであった。民間企業のアクションに比べて官庁のアクションが以前通りのため、公務員志望の学生に焦りが見受けられる。少しでも民間企業との時期の差を縮めることはできないものか。

伊藤：ご主旨はよくわかりますが、官庁と民間企業との時期の差を縮めることは、なかなか難しい状況です。

伊藤：KTCからは、他学科で院志望の学生が多く、不合格の学生が就職に困っていると聞いていますが、市民工学科ではそのような状況ではないのでしょうか？

澁谷：今はない。ただ、今後色々なことが想定され、公務員の2次、3次募集の情報があれば是非、提供して頂きたい。

伊藤：困っている学生が出た段階で、官民を問わず対応します。先日、就職先に困っている建築学科の学生にゼネコンを紹介したところでした。

中山：3年生と院1年生を対象に、各業界から20数社が参加する今年初めてのキャリアガイダンスを11月5日～12月24日に開催する予定である。学生は、事前に神戸大学のBEEFシステムを通じてオンライン説明会に参加する。

伊藤：学生は積極的に参加するのでしょうか？

中山：説明会開催日程は、オンライン講義の空き時間に設定した。神戸大学の先輩から色々な企業のことを聞けることは勉強になると思う。

山下：今年は、コロナの影響からインターシップも開催されておらず、今回のキャリアガイダンスは、学生にとって良い機会だと思います。

伊藤：KTCから10月23日オンラインによる座談会形式のOBが語るキャリアセミナーが開催されるとお聞きしたがご存知でしょうか？

中山：全く連絡が届いていない。後日、KTCに問い合わせる。

山下：例年11月～12月に開催されている業界ごとの説明会に相当する場だと思います。例年、市民工学科より早い時期に開催されています。

伊藤：10～15人程度に人数制限を設けた上で、現場見学会を開始している企業があると聞いていますが実態はどのような状況でしょうか？

楯田：約60名全員が参加する授業としての見学会は、小人数に制限することも難しく、実施はしていないが、企業から見学会の案内があれば、各教員、学生に案内は行っている。

中山：見学会等の情報は、事務室に提供すれば学生に伝わるようになっているのでよろしくお願ひしたい。

澁谷：暁木会からは、学生のために社会人の先輩として生の声をお願ひしたい。

伊藤：引き続き暁木会として協力させていただきます。

澁谷先生、楯田先生は、退出。

第2部：暁木会と学生の関係について

伊藤：学生のために暁木会として就職も含めて何か協力できることはないでしょうか？

中山：昨年度から相談していることであるが、暁木会の広報の場としてOBと学生の懇親の場を設けたい。しかし、検討が進んでいない。

伊藤：暁木会と学生のウェブ座談会を開催してはどうでしょうか？5～6名の学生にOBが入ったグルーピング形式で開催できれば良いのですが。

竹本：5～6名の学生に官庁、ゼネコン、コンサルの各OB3名が入ったグループはどうですか？

山下：対象とする学生は、3年生、院1年生が適切かと思います。

中山：1年生は未だ早い。3年生、院1年生が適切だと思う。グループの人数は、5、6名が良い。多人数だと学生は、発言しなくなると思う。

伊藤：各グループに入るOBは1業種で、グループチェンジをすることで色々な業種の話ができるのではないですか？

中山：それでいいのではないか。年内は難しい。

伊藤：2部、3部構成として複数のグループと座談する方向で調整しましょう。暁木会の窓口は、竹本幹事をお願いします。

伊藤：暁木会として引き続き支援して行きます。本日はありがとうございました。

東海支部総会の報告

例年秋に開催している暁木会東海支部総会につきましては、新型コロナウイルス感染症の世間への影響をみながら、開催の可否を慎重に検討したものの、我が国の感染状況や、感染拡大防止の観点から、やむを得ず書面にて開催することとし、9月に実施しました。総会では、今年度の本部助成金を神戸大学が実施している新型コロナウイルス感染症予防対策の原資に振り替える旨、議題として取り上げ、満場一致で可決されました。東海支部として大学および学生の皆様への支援活動に今後も微力ながら協力していく所存です。

（報告者：東海支部事務局 東邦ガス(株) 竹本正和 C03）

岡山県支部総会の報告

新型コロナウイルス感染症の全国的な広がりを受け、令和2年度の岡山県支部総会につきましては通常開催を取りやめて書面開催とし、令和2年9月29日付で実施いたしました。年に一度多方面で活躍される同窓生と交流することができる貴重な場ですので、開催できないのは非常に残念ですが、来年度の総会は例年通り開催できるよう願っております。

支部全体で集まることはできませんでしたが、今年度新たに岡山市に入庁した会員がいるため、令和2年10月9日に岡山市の職域の会員のみで新入会員の歓迎会を行いました。

神戸大学の教職員および学生の皆様におかれましても新型コロナウイルス感染症の影響により非常に厳しい状況にあると聞いております。暁木会本部から大学への支援について、岡山県支部としても微力ではありますが、可能な限り協力をしていきたいと思っております。

（報告者：岡山県支部事務局 岡山県 熊城秀輔 C03）

広島支部総会報告

令和2年度広島支部総会は、コロナ禍のため対面による開催を中止といたしました。毎年、総会で報告しております、会務報告・会計報告や本部の活動予定等については、支部会員へメールを配信し、書面による確認を行わせていただきました。

会員皆さまのご健康をお祈りするとともに、来年はニューノーマルの下で支部総会を対面で開催できることをお祈り申し上げます。

報告者：暁木会広島支部事務局 復建調査設計(株) 木村裕行(08C10M)

令和2年度の名簿発行について

今年度は、2年に1回の名簿の改定版を発行する年となっております。会員の皆様には改定した名簿とともに今号の暁木会ニュースをお届けいたします。名簿改定にあたり、誤記あるいは未更新等不十分な点多々あることと思います。ご容赦をお願いするとともに改正等ございましたら、大変申し訳ありませんが、下記連絡先までご連絡をお願いいたします。なお、会員の個人情報につきましては、名簿を所有する会員の皆様で管理徹底して頂きますようお願いいたします。

暁木会年会費納入のお願い

平成15年度から令和2年3月末現在、1,200余名(会員総数3,900名)を数える会員の皆様方の会費によって、暁木会の日常活動を進めております。会員の皆様には、暁木会の活動にご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

しかしながら、暁木会の安定した運営を行うためには、未だ十分な財源が確保できておりません。現在、KTCのメーリングリストや、クラス幹事、各職場の世話人を通じて会費納入の依頼を行っているところです。会費会員へのサービスとしては、暁木会ニュースおよび会員名簿の発行をさせていただいております。会費納入の手続きが未了の会員各位には、手続き関連書類を送付いたしますので、下記の連絡先にご連絡ください。

*年会費の集金方法につきまして、現在、集金代行業者(三菱UFJニコス株式会社)に委託し、会員の指定金融機関から年1回の自動引落しの制度を採用いたしております。

おわりに

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様、名簿改訂にあたりご協力いただきました学年幹事様および各企業の職場担当の皆様には心からお礼申し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。特に、同窓会をされた際には、ぜひその様子を寄稿下さい。その他、ご意見ご要望等ございましたら、下記連絡先までよろしく願い申し上げます。

発行者：暁木会

E-mail：info@gyoubokukai.jp

連絡先：常任幹事 広報 G 能沢 昌和 ㊿

株式会社 熊谷組

TEL：06-6225-2123 FAX：06-6225-2199

E-mail：mnozawa@ku.kumagaigumi.co.jp